

令和4年度 住まい環境整備モデル事業  
【課題設定型・事業者提案型】  
**提案内容の概要**

---

**事業名称：国籍や障害の有無を問わず人が集い、  
学び合うことで多様な生き方を育む拠点づくり事業**

---

**代表提案者：株式会社36（代表 中山 佳奈）**

**共同提案者：認定NPO法人まなびと（代表 中山 迅一）**

---

# 1. これまでの取組

## 株式会社36

- 飲食店経営（2016～2023）
- シェアオフィス経営（2020～2023）

※施設管理、およびコミュニティ運営などの経験

## 認定NPO法人まなびと

- 学童保育事業（2017～2023）
- ちいき食堂事業（2018～2023）
- 外国人支援事業（2014～2023）

※対人支援、地域活動のマネジメントなどの経験

# 1. これまでの取組

地域の連携先・関係者

学童利用者の保護者  
(75世帯/2023年)

学童を利用する子ども  
(85名登録/2023年)

北野観光協議会

神戸市各担当局

子育て世帯食糧支援  
(70世帯/2023年)

北野四丁目自治会

神戸市社会福祉協議会

提携日本語学校  
(5校/2023年)

留学生被支援者  
(250名/2023年)

北野ふれあいの  
まちづくり協議会

同地域小中学校

提携大学  
(7校/2023年)

大学生ボランティア  
(50名/2023年)

民生委員

同地域保育園

飲食店利用者  
地域住民の方々

婦人会

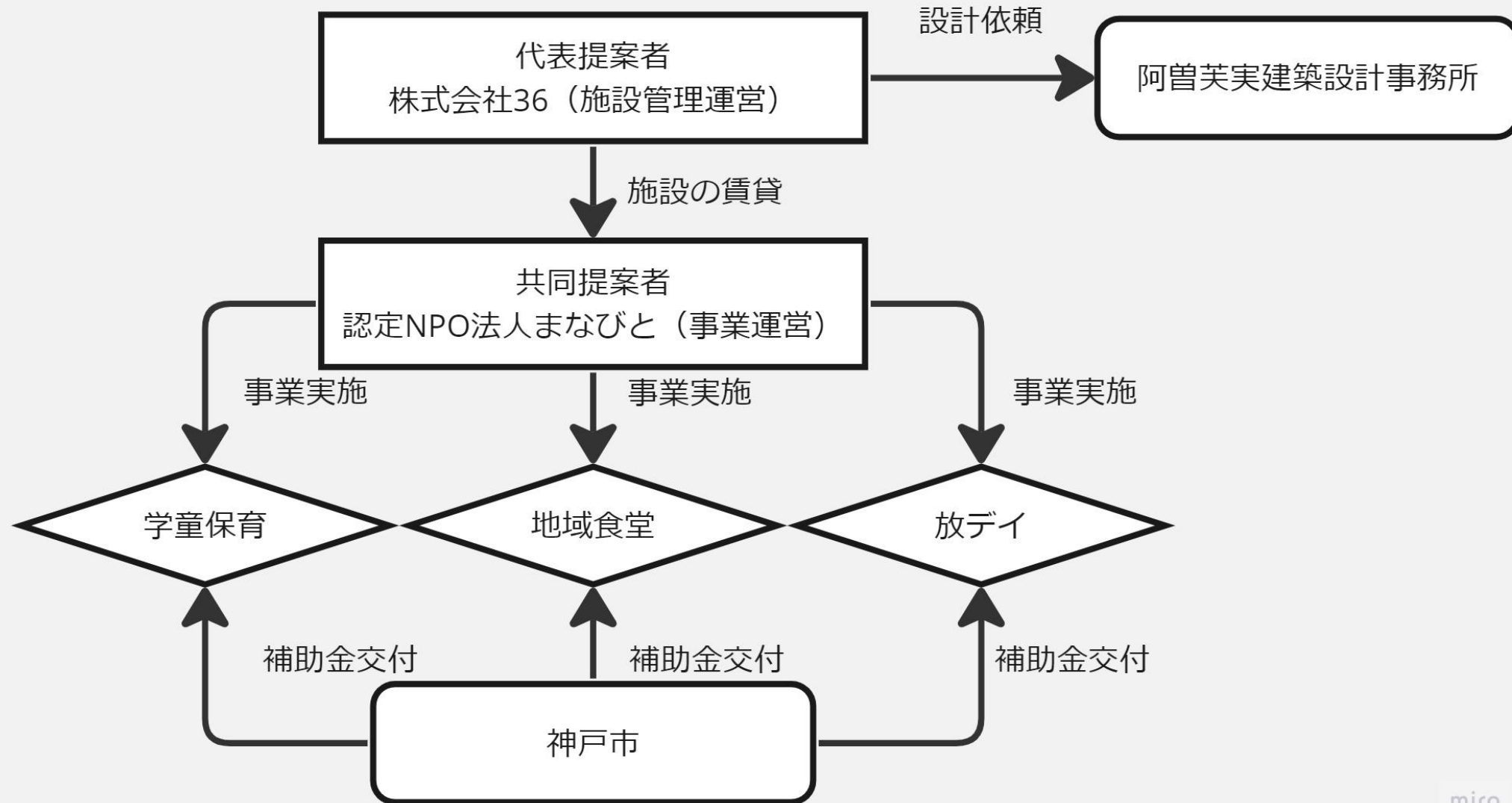
地域の事業者

# 1. これまでの取組

【課題設定型・事業者提案型】



## 事業実施体制



## 2. 現状・問題意識

神戸市は人口150万人都市である。その中心街・三宮が位置する中央区は人口15万人、昼間人口は30万人と、多くの人々が居住しながらも繁華街、オフィス街として他地域からの人の流入も日常的に多いエリアである。

中心街であることから地価も高いため、ファミリー向けや単身向けのマンションが増加傾向にあり、**限られたパーソナルスペース**で生活している住民が増えている。

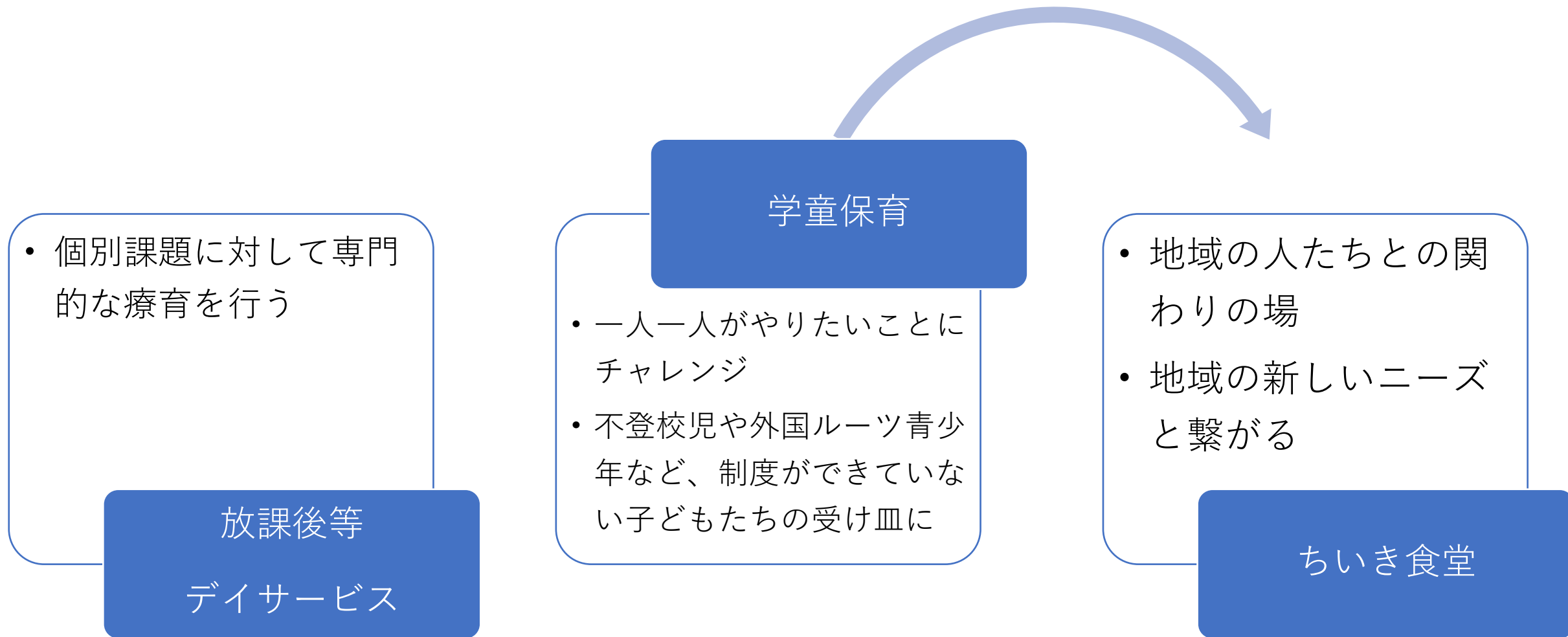
中心地への人口流入に伴って**子どもの数も増加傾向**にある。

一方で、土地が限られており、子どもたちが放課後に気軽に遊びに行ける公園がない。地域福祉センター等公共の施設も老朽化が進み、またラブホテルの裏手にあるなど立地の悪さから、**地域住民が積極的に活用できる場所にはなっていない**。

ニュータウンブームの際に小学校が統廃合してしまい、学校区が広すぎるため、地域内の児童館へのアクセスも悪い。

こういった背景から、子育て世帯が孤立しやすい状況が生まれている。また、地域の単身世帯や高齢者の行き場も少なく、本来であれば相互扶助的な関係性になれるはずが、なかなか**つながりを作れていない現状**がある。

### 3. 提案内容

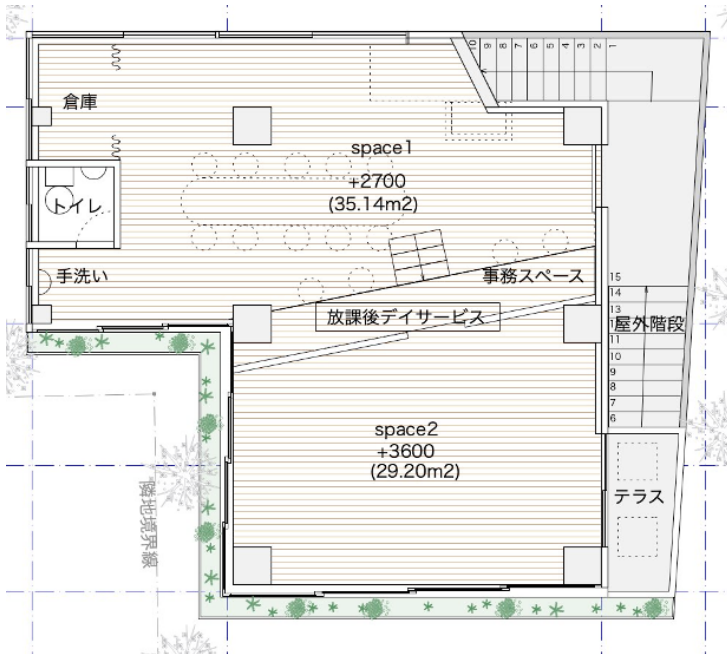


多機能で行うことで、利用者にとって**ステップアップ**できる場になる。

また、**ロールモデル**を近くで見つけられる。  
支援者にとっても、専門知識を多事業で活かせるので、**インパクトを広げやすい**。

### 3. 提案内容

伝統的建築群保存地区のため、周囲の景観を積極的に取り込むことで、住民にも親しまれやすい建物にします。



建物前面の道路に対して**開かれた空間**にすることで、地域の人たちにとって入りやすく、また外からでも様子を見られたり、情報を得られるようにします。

各フロア、各事業の中でも、静的空間、動的空間、また人との関わりの度合いなどで利用者の中にも得意不得意があるため、スキップフロアにすることで**それぞれに合わせた対応**がしやすくします。  
また、個別の対応をしながらも**同じ空間で過ごしている雰囲気**を感じることで、安心感やワクワク感につなげます。



## 4. 期待される効果

### 居場所を得る

- 子ども、外国人、大学生、保護者、地域住民が、  
**自分のことを知ってもらえて受け入れてもらえる**居場所が得られる

### 多様な人との関わり

- 同じ場に集う、多様な人との関わりを通じて、自分が大事にしているものや相手が大事にしているものを学ぶ。
- 支えたり、支えられたりする関係性になる

### 地域で活躍する

- 自分ができること、やってみたいことで地域に役に立てることを見つけることができる。
- 自分の住んでいる地域が、自分も含め**誰もが長く住みたい魅力ある街に変わる。**

## 5. 検証方法

	放課後等 デイサー ビス	学童保育	学習支援	あそび場	ちいき食 堂
障がい児	個別支援 を行う	集団適応 にチャレ ンジ	―――	―――	お手伝い を試みる
外国ルー ツ青少年	―――	日本語を 沢山浴び る	本読みが できるよ うになる	みんなと 遊ぶこと ができる	自分の ルーツの 紹介をし てみる
グレー ゾーンの 子ども	―――	個別相談 を行う	1人で学 習できる ようになる	自分なり の過ごし 方を見い だせる	知らない 人と話せ るようにな る
・・・					
・・・					
・・・					
・・					

左記のような、**対象者別のステップアップフロー**を作成し、事業の効果を検証、改善ができる環境を作ります。

ステップアップフローには左記事業、対象者だけではなく、外国人留学生や地域住民を含めます。

また、こういった質的变化のほかに、各事業の利用者が何人いて、地域のニーズのどれぐらいを担っているのか、またそれが適切なかどうかを**他地域での他団体の取り組みなどとも比較**しながら検証します。

さらに、この取り組みとして目指している、一人一人が地域で活躍する、という点は年に1回の**文化祭**と、**報告会**で発表の機会を設けることでモニタリングします。

上記ステップアップフローを適切に作成するために、職員研修を行います。